

ごあいさつ



日本WHO協会 副理事長
生駒 京子

株式会社プロアシストは1994年に創業しました。当時の日本はバブル崩壊後で、ニュースや新聞記事がとても暗かったのを記憶しています。この日本を何とか元気づけたいという思いで起業しました。

弊社は主に信号処理を強みとする3次元&計測技術で、工場での良品不良品判断、機械の劣化計測など多種多様な製造業の皆様の課題解決をしてきました。1998年からはヘルスケア関連の課題である生活習慣病対策として遠隔で栄養指導、運動指導をするクラウドサービスを立ち上げました。

2008年からは睡眠を計測する計測器の開発に着手、翌年に脳波計を発売し、生活リズムの乱れやストレスから引き起こされる「睡眠障害」の分野に取り組んで参りました。今では医療機器としての計測器も発売しています。

背景には、厚生労働省が睡眠分野における国民の健康づくりの取り組みとして、2002年度に「健康づくりのための睡眠指針検討会」を開催、2003年3月に「健康づくりのための睡眠指針～快適な睡眠のための7箇条～」を策定した経緯があります。

指針策定から10年以上が経過し、睡眠に関する科学的知見が蓄積されたこと、また、2013年度から健康日本21（第二次）（21世紀における国民健康づくり運動）を開始したことから、睡眠の重要性について普及啓発を一層推進する必要

があり、2014年に「健康づくりのための睡眠指針2014」として改訂されました。

社会全体で高齢化が進む中、ITの進化発展で社会が24時間稼働となり、ストレス社会となった今、4人に1人が睡眠に課題を抱えていると言われております。

世界保健機関（WHO）では、現在知られている病気を網羅した診断分類法『疾病及び関連保健問題の国際統計分類（ICD）』を作っています。

約30年ぶりの改訂で国際疾病分類の第11回改訂版（ICD-11）が2018年に公表され、以下の章が新たに設けられています。

- ・第4章 免疫系の疾患
- ・第7章 睡眠・覚醒障害
- ・第17章 性保健健康関連の病態
- ・第26章 伝統医学の病態—モジュール I

人生100年時代への突入に際して、技術の進化により医療の診断は変化していくことが予想されます。同時に、世界で健康に関する取り組みがどんどん広がっています。

私が日本WHO協会と関わらせて頂いたのは、2009年からで、現在副理事長を仰せつかっております。

日本WHO協会では、WHOの取り組みを皆様にお伝えし、SDGsの目標にもある「誰一人取り残さない世界の実現」を目指して情報発信やセミナー等を企画して参ります。どうぞ、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

2019年12月